

文献管理システムを使用した研究業績 データベースの作成

小林 晴子、坪内 政義
愛知医科大学医学情報センター（図書館）

1 背景

平成 22 年度に実施した愛知医科大学の教育情報等の公開に対応するため、教育・研究成果をはじめとする情報の一元化を図るべく、学内部署と連携し教育・研究業績システムの構築を検討してきた。平成 21 年度には、新システム導入までの準備として、医学情報センター（図書館）が担当する研究業績データの管理・公開方法を、Word 文書から文献管理システム RefWorks への入力、データベース化に変更し、データの拡張性を高めることで、各業務に対応できる環境整備を図った。

2 研究業績データベース構築にあたって

文献管理システムによるデータ収集・編集、公開作業については以下の通りである。

1) データ収集・編集

- ・ RefWorks の個人アカウントを部署単位で設定し、部署毎にデータを入力するように所属長に依頼。
- ・ RefWorks の出力フォーマット機能を活用し、記事区分毎（著書、学术论文、報告・紀要類、学会、プロシーディング、その他）に必須項目を設定し、入力作業の簡易化を支援した。入力完了したデータは、図書館員がチェックし、編集機能を使って訂正。

2) 公開

- ・ 公開用の RefWorks のアカウントを作成し、編集作業が完了したデータをまとめる。
- ・ RefWorks 内に搭載したデータを共有、公開できる機能を使い、データを学内外に公開し、著者名の検索等データベースとしての機能も持たせた。

3 課題と展望

平成 23 年度からは教員評価の実施が予定されており、研究業績データにインパクトファクターの数値等付加情報が求められている。情報の一元管理や効率的なデータの収集が課題である。

愛知医科大学では、研究業績データの取扱部署はどこが適切なのか、といった議論が長年行われてきた。論文情報を扱うのに慣れている図書館がその担当ではあったが、役割などはあいまいであった。しかし、大学を取り巻く環境の変化にともない研究業績のニーズが高まった今、他部署との連携の強化を図りながら、内部へのマーケティングも意識した図書館の位置づけをアピールしたいと考える。